



(2004年2月)

【今後の学会活動予定】

1. 平成16年度大会開催予定

日 時：平成16年3月28～30日（日～火）
会 場：福岡国際会議場（福岡市博多区，
<http://www.marinemesse.or.jp/kaigi>）
問合せ先：九州大学農学部植物病理学研究室内
平成16年度日本植物病理学会大会事務局
TEL/FAX: 092-642-2834
E-mail: byouri@agr.kyushu-u.ac.jp

2. 平成16年度部会開催予定

- (1) 北海道部会：平成16年10月21～22日
北方圏センター（札幌市）
- (2) 東北部会：未定
- (3) 関東部会：平成16年9月16～17日
東京農工大学農学部（府中市）
- (4) 関西部会：平成16年10月9～10日
愛媛大学（松山市）
- (5) 九州部会：平成16年10月20～21日
沖縄県女性総合センター「ているる」（那覇市）

3. 平成16年度「植物病害の診断・防除教育プログラム」
開講のお知らせ（予告） 日本植物病理学会

近年、科学技術の発展により植物病理学の分野においても、病気のメカニズムの解明やそれらに裏づけられた新防除技術の開発などで目覚ましい発展が見られる。しかしながらその一方で、本来植物病理学分野が担う農業現場における病害診断や病原体の分離・同定・分類などの技術を習得した研究者や技術者数が年々減少傾向にある。また、大学教育における圃場実験・実習体制の不備も手伝って、農業現場における諸現象に関心を示さない大学院生や学部生が急増していることが、日本を含む世界各国の調査で明らかにされ、基本的な病害診断技術教育の強化に早急に取り組む必要のあることが指摘されている。本学会は、上記の対

策の一つとして若手研究者を対象とした教育プログラム「植物病害の診断・防除教育プログラム」を平成16年度から開講することに致しましたので、奮って御参加下さい。

記

受講対象者：本学会会員の若手研究者（大学院学生，社会人等）

募集人数：今回は試行的であるため先着20名とする

日 時：平成16年8月16日（月）～20日（金）

開催場所：東京農業大学農学部（神奈川県厚木市船子1737）

参加費：実費負担

宿泊費：3,000円/日（学生会館）

プログラム：

8月16日（月）

開会の辞 学会長 米山勝美氏	9時45分
岸 國平氏（植物病害の診断）	10時～12時
丹田誠之助氏（うどんこ病）	13時～15時
小林享夫氏（樹木の病害）	15時～17時
懇親会（レストラン 樺）	18時～20時

8月17日（火）

渡辺恒雄氏（土壌病害）	9時30分～17時
-------------	-----------

8月18日（水）

松山宣明氏（TLCによる病原細菌の簡易同定）	9時30分～14時
------------------------	-----------

西山幸司氏（病原細菌の一般的同定法）	14時～17時
--------------------	---------

8月19日（木）

根岸寛光・澤柳利実氏（血清学的手法による病原菌の同定）	9時30分～12時
陶山一雄・兼橋和央・脇本 哲氏（病原細菌の分離法，選択培地など）	14時～17時

8月20日（金）

眞鍋佳世氏（放線菌の簡易同定）	9時30分～12時
篠原弘亮氏（GLCを用いた脂肪酸分析による細菌の同定）	13時～16時
飯嶋 勉氏（総括）	16時～16時45分

閉会の辞 実行委員会代表 陶山一雄氏16時45分～17時
 問合せ先：東京農大農学部微生物生態学研究室 松山宣明
 〒243-0034 神奈川県厚木市船子1737
 Tel & Fax: 046-270-6603 (直通)
 E-mail: matsun@nodai.ac.jp

【書評】

羽柴輝良, 山口高弘 監修：『応用生命科学のための生物学入門』改訂版 280頁, 発行：2003年11月 培風館 ¥2,400円+税

現在, 応用生物に関する内容を扱っている学部である農学部や医学部, 薬学部などの入学者には, 意外なことに大学受験科目として生物を選択してこない学生が少なからずいる。学生に話を聞くと, 受験のテクニックとして物理を選ぶようである。そのような学生に対する専門科目の補充教育はどここの大学でも課題になっている。本書は, 農学部に入学したそのような不心得学生?のための生物学の入門書として書かれたものである。現在, 生物学はきわめて分化し, それにともなって農学部が関わる分野はますます学際的になってきている。対象内容は生命物質である核酸・タンパクから, 細胞, 微生物, 動・植物の生理・生態や生物の多様性, 地球環境の保全・修復にまでにおよぶ。したがって, 本書に記載されている内容も幅広い。本書では学生達に生命現象や, 生物環境に対する基本的な概念をイメージさせるという目的からか, 生命物質や生体調節に関する内容と, 生態学や地球環境, 生物多様性に関することが特に詳しく纏められており, ページ数が限られている割には, 基礎的な項目が整理され, 現在の農学部が関わる生物学の入門テキストとして十分な内容であると思われる。しかし, 植物病理学を教えている立場としては, 植物の生体防御機構が詳しく記載されているのはうれしいが, ウイルスや, 微生物の話がほとんどないこと, 植物の形態形成と環境とのかかわりなどが省かれているのは少しさびしい気がする。また, 新進気鋭の若手の教員による共著であるのであれば, エイズや BSE, クローン生物や遺伝子組換

えの問題など, 現在特に話題になっている内容をわかりやすく解説するコーナーをうまく配置することも学生の農学に対する興味をより高めるとともに, 以後の進路選択に役立ったかもしれない。ともあれ, 今後, 生物の補充教育を担当しようとしている教員に推薦したい教本のひとつである。(生井恒雄)

【学会ニュース編集委員コーナー】

情報提供および投稿のお願い

本ニュースは身近な関連情報を気軽に交換することを主旨として発行されております。会員の各種出版物の御紹介, 書評, 会員の動静, 学会運営に対する御意見, 会員の関連学会における受賞, プロジェクトの紹介などの情報をお寄せ頂きたいお願いいたします。

投稿宛先：〒170-8484 豊島区駒込1-43-11

日本植物防疫協会ビル内

学会ニュース編集委員会

FAX: 03-3943-6086

または下記学会ニュース編集委員へ：

松山宣明, 塩見敏樹, 竹内妙子, 阿久津克己,
各委員宛

編集後記

新年明けましておめでとう御座います。会員の皆様方のご健康とご発展をお祈りいたします。さて, 学会ニュース第25号をお送りします。今回は, 今春福岡で開催されます日本植物病理学会大会の再度のご案内, 各部会の開催予定, 今夏8月16日～20日の5日間, 東京農大・農学部(厚木キャンパス)で開催されます第1回教育プログラム「技術講習会」のご案内, 書評など情報量が比較的少なめですが, 年初でもありご容赦下さい。(松山宣明)
